



基本理念 農の持つ魅力の輝きを放ち続けるものとなるよう、生産者、消費者、事業者、関係団体、市等の中で連携・協働しながら、農業施策を総合的かつ計画的に推進する。

30年後を見据えた10年後の目指す姿

持続可能な農業経営基盤の構築と農業の多面的機能の維持

計画期間

令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間

基本方針Ⅰ 農業の担い手の育成・確保



重点1 新規就農者の育成・支援

- 新規就農相談窓口、農業塾の充実
- 関係機関と連携した新規就農者（予定者）のバックアップ
- J Aの産地戦略に対する支援

重点2 多様な担い手の確保

- 援農ボランティアと農家のマッチング
- 誰でもやりがいがあり、働きやすい環境づくり
- 各種委員等への女性登用の推進
- 農業経営の法人化、企業やNPOなどの農業参入推進
- 認定農業者への誘導
- 地域の中心的経営体や生産部会組織、農業生産組合の支援

重点3 ユニバーサル農業の推進

- ユニバーサル農業推進部会による、具体的な施策の検討
- 市民農園等開設支援
- J Aと連携した「農福連携相談窓口」の設置、体制基盤づくり

基本方針Ⅱ 農業経営の安定化



重点4 農作業効率の向上

- 担い手への農地の集積・集約化、農業生産基盤の整備推進
- 農業水利施設等の適切な保全管理
- 防災重点農業用ため池の整備促進、防災情報の提供
- 農業用機械等購入に係る支援
- 異常気象による被害を軽減できる品種や生産安定技術の導入支援

重点5 スマート農業の推進

- ロボットトラクター等作業の自動化の推進
- 作業記録のデジタル化等情報共有の簡易化の推進
- 気象データ等のAI解析による生育予測等高度な農業経営の支援
- 試験的導入、技術研鑽の取組支援

重点6 農業所得の向上

- 6次産業化の取組支援、相談体制の充実
- 新商品開発、販路拡大支援
- 水田フル活用の推進
- 経営所得安定対策・価格安定制度への加入、農業保険制度の定着推進
- 安心して飼育ができる畜産経営環境の整備
- 畜産経営に起因する悪臭・害虫の発生防止、生活環境の保全

基本方針Ⅲ 地消地産の推進



重点7 地消地産・消費者交流

- 農林産物直売所の機能強化、地域内流通の拡充
- 学校給食等での地域食材利用促進
- イベント等の開催による地元食材の情報提供、生産者との交流促進
- 大人から子どもまで幅広い世代へのPR強化
- おかざき農遊館、ふれあいドーム岡崎、道の駅藤川宿の直売情報の充実
- 新たな生活様式に対応した流通・消費体制づくり

重点8 食育の推進

- 岡崎市食育推進計画に基づく、食育的視点からの農業振興

基本方針Ⅳ 農業の多面的機能の維持



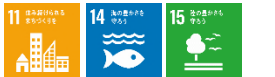
重点9 農業の多面的機能に関する市民理解の促進

- 農業が食料供給機能以外の機能があること（多面的機能）の市民理解醸成
- 農地を保全・活用する意義の市民理解醸成
- 日本型直接支払制度の推進
- 有機農業、減化学肥料栽培等環境にやさしい農業の推進
- 内水面資源の保全、市民理解促進

重点10 耕作放棄地対策

- 実質化された人・農地プランの実行
- 農作業受委託の推進
- 美しい地域づくりや景観づくりの推進
- 多様な担い手による農地利用の促進
- 新規就農者の受け入れ促進
- 適切な農地利用計画

基本方針Ⅴ 中山間地域対策



重点11 鳥獣被害対策

- 捕獲体制の強化、担い手（狩猟者）の育成・確保
- ICT技術導入による捕獲作業の軽減化
- ジビエの有効活用推進
- 有害鳥獣を山奥に戻す取組の推進

重点12 特色ある地域の魅力の発信

- 地域資源の有効活用、新たな付加価値化の推進
- 農業の担い手の確保・育成
- 体験、交流プログラムの充実
- 地域活性化拠点としての「小さな拠点」の形成
- 「農のあるライフスタイル」「半農半X」等の支援体制の構築
- 棚田、里山の保全による生物多様性の確保



基本方針Ⅵ 都市農業の推進（都市農業振興計画）



重点13 多様な機能を有する都市農業の推進

- 都市農業の農林産物を供給する機能の向上
- 都市農業の担い手の育成・確保
- 都市農業が有する多様な機能の発揮
- 優良農地による田園風景の保全
- 都市農業により生産された農林産物の地元における消費の促進
- 農作業を体験することができる環境の整備
- 学校教育における農作業の体験の機会の充実
- 都市農業に対する市民理解と関心の増進
- 都市住民による農業に関する知識及び技術の習得の促進
- 都市農地の健康維持機能等の調査研究の推進

成果指標

令和3年度に本計画に基づくアクションプランを定め、岡崎市農業振興ビジョン推進委員会により、施策・事業の進捗状況や数値目標、成果指標の進捗状況の検証を行い、「P（計画）・D（実行）・C（点検）・A（見直し・改善）」サイクルを確立します。

重点	成果指標	現状 R2(2020)	目標 R12(2030)
1・13	新規就農者数（直近5年間の平均人数）	3.4人	5人
2・13	援農ボランティアマッチング人数（直近5年間の平均人数）	18.2人	30人
2	岡崎市農業振興ビジョン推進委員会における女性委員比率	42.9%	40%以上を維持
3・13	農福連携相談窓口を通じたマッチング	0件	10件
4	農地中間管理事業における農地の貸付累計面積	557ha	700ha
	農地の整備率	63.6%【R1】	70%
5・13	新技術・能力向上プロジェクトに取組む農業者（直近3年間の平均人数）	5.3人	10人
6	認定農業者の平均農業所得（直近5年間の平均金額）	8,545千円	12,000千円
7・8・13	地元産農林産物を意識して購入している人	28.8%【R1】	40%
4・9・13	農地のもつ防災機能の認知度	46.8%【R1】	60%
10	荒廃農地面積	574.3ha	500ha
11	農林水産業の年間推定被害額	10,489万円	5,000万円
12	地域資源を活用した体験・交流プログラム数	—	増加数10件